

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第35回放送の概要 (2011年6月25日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なかちゃん (中嶋邦弘)

## コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)  
一ノ瀬悟

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」、抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コーロレではおいしいコーヒや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。今日は「神戸ルミナスホテル」様(TEL:078-511-7700)のご協力を頂きました。

## 1. オープニング

先日新聞に兵庫高校OB (45 陽会) が古希の記念に、兵庫県南北 220km を 16 回に分け 2 カ月かけて縦断したとの記事が掲載されていた。横断する場合は瀬戸内海側では 100km 程度、但馬地方では 50km 程度の距離になる。縦断では東経 135 度線を歩く人も結構おられる。西脇付近を北緯 35 度線が走っており、135 度線との交点を日本の臍と呼んでいる。

## 2. ゲストコーナー：倉松葉子さん (52 陽会)

本日のゲストは 52 陽会の倉松葉子さんで、以前ゲスト出演頂いた宮崎泰樹さんにもお越し頂いています。倉松さんはギャラリー・リーフ・神戸を運営されており、湊中学、兵庫高校、大阪教育大学の美術専攻を卒業された。

高校時代の印象に残る思い出は、美術部に所属していた一年生の時に制作した体育祭のアーチの事です。当時、文化祭や体育祭の看板を制作していたのは美術部員で、その看板と言うのが以前は平面のベニヤ板に絵を描くという従来の看板であったが、その時は違うことをしようということで立体を組み合わせて今風にいうと 3D のアーチを作った。箱型のものを組み合わせた立体デザインを作り体育祭と言う文字をいれたもので、出来上がったアーチは会心の作で当時としてはとても斬新で、苦勞を共にした部員一同で喜びを分かち合ったことが忘れられない。3 年生は受験があるため 2 年生が提案し出来上がったものです。大学で立体 (彫塑) を専攻したのはこの時の体験が潜在的に影響していたのかも知れない。



ギャラリーネームについては、友人に芦田俊さんという Web サイト制作会社アシステムの社長さんが

先々HP を作るのなら SEO 対策上（注：google などで検索した時上位に表示されるようにする）からも名前にカテゴリー（即ギャラリー）と地名（即神戸）を入れると良いとアドバイスを頂いた。結果‘ギャラリー’‘神戸’その間に母が付けてくれた‘葉子’という名の葉を取って読みは英語でリーフと名づけた。お陰さまで「ギャラリー神戸」と入れて Web 検索すると google でも yahoo でも概ねトップページに上がってくる。

リーフの特徴としては、基本的には貸しギャラリーですが年間5回ギャラリー企画の展覧会を開催している。その時は抽象・具象・油彩・水彩・彫刻・現代アート・陶芸・クラフトなど色々なジャンルの方々に出品頂いている。他分野の作品を見れるのが良いと喜んでいただいている。

ギャラリーは開廊して5年目で、7月に5周年の「Leaf展」を開催する。ギャラリーを始めようと思ったのは美術が好き人が好き、そして父が加納町という立地条件の良い場所にスペースを遺してくれたので、還暦を目前に70歳ではしんどいが60歳では新しいことを始めるラストチャンスかなと思ったからです。父は終戦後銀行を辞め、阪神淡路大震災の年まで48年余り写真館を営んでおり、自分の写真は世界各国に行っていると良く言っていた。当時商品カタログ写真を撮っており、またブラジル移民の写真もずっと撮っていたので最後の移民船の時にはTVの取材も来ていた。

高校の美術部で絵を描いていた方にはプロになられた方、先生をされた方、アマとして描き続けておられる方などがおられるが、兵庫高校出身でリーフに作品をお出し頂いている作家さんについては、46陽会の牧野泰子さんは、洋画家で薔薇をテーマに素晴らしい水彩画を描かれている。今年4月に個展をされ20数点展示されたがとても好評でした。49陽会の宮崎さんは、来年3月～レトロな建物を描く～というテーマで個展を予定されている。来る7月の『Leaf展』にも趣の違う半具象画‘古代魚のきらめき’を出品される。テーマとしては「空想の世界の古代魚」で、もともと古代魚のジャンルがありそれを空想し抽象化したものである。具象と似た言葉である具体美術とは吉原治良さんと言う人が中心になって今までに見たことのないフォルム、色、描き方を弟子を中心に展開し、世界的に認められたものである。完全な抽象の世界で日本の美術界に革命を起こした。50陽会の抽象画水野真由美さんは西宮美術協会に所属し国画会にも入り活躍されている。52陽会の具象画谷川修三さんは、リーフの企画展『I Love Kobe展』『Leaf展』の常連さんです。

（注）国画会：伝統的な文展の審査のありかたに不満・疑問を持った京都在住の日本画家、入江波光・小野竹喬・榊原 紫峰・土田麦僊・野長瀬晩花・村上華岳によって、“西洋美術と東洋美術の融合と、新しい日本画の創造”を目指し、大正7年(1918年)に「国画創作協会」として結成された。展覧会は「国展」と称する。）

7月の「Leaf展」に出品される障害者アート団体‘片山工房’さんは元々長田区片山町からの発信と言うことで名前がついたもので、一昨年3月「THE FLOWER」という女性展をされ、その時は読売、神戸新聞が取材に来られた。リーフの企画展の常連さんです。現在は移転されて住所は変わっている。

企画展『I Love Kobe展』は震災の1月17日を挟んで毎年行っているもので震災を思い出し神戸はこのように元気になっていること、作家もこのように活躍している再生の意味を込めて行っている。年初の大事な企画展である。

『Leaf展』は7月に開廊したので「Leaf」とその年ごとにプラスα（作家が大切にしているポリシーなど）を含め連想できるようにと考えた企画展で、今年のプラスαはビエンナーレ2011のテーマの“きらkira”である。出品する作家は18名（倉松さんも写真家として出品）である。

企画展の案内状やチラシはデザイナーでプログラマーである娘さんが描かれている。今年は7月5日（火）から10日（日）までで、感謝の気持ちを込めて開廊五周年記念品も用意している。この番組のリスナーの方だけに内緒のお話、記念品はリーフの形をした白い素敵な陶器のお皿を、Leafの形にちなみ88枚用意しています。



### 3. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

「Leaf 展」の開催される場所はフラワーロード、加納町 3 丁目交差点のすぐ手前です。10 日（日）には 13 時から北野工房のまちで音楽でエールを送ろうというチャリティコンサート「Lovely World Concert」が開催されます。以前ゲスト出演頂いたユーカリプタスのメンバーも出演されます。また高校同級生も出演する移情閣コーラスも出演します。

今の時期、家の中も外も湿度が高い。人間は水分が殆どであるためいい水分を摂り、いい水分を体に巡らせる必要がある。今は余分な水分がたまりやすい時期でもある。漢方的には湿邪に気を付ける必要がある。むやみに体を冷やしたりするとむくみが出てくる。むくみは腰痛、頭痛、肌荒れ、膝関節痛の原因となるので注意しましょう。回復体操の 1 つはため息のような長い呼吸をすること湿気を帯びた長い息を吐くことが大事である。

### 4. 来週のゲスト

来週のゲストは神戸高校OBの永田實さんにお越しいただきます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：[yuukarinikanpai@gmail.com](mailto:yuukarinikanpai@gmail.com)